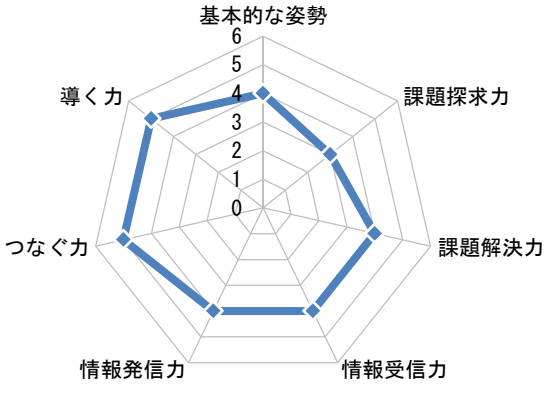


大学間連携共同教育推進事業  
 ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム  
 ④グローバル教育推進プログラム  
 b) 留学生受け入れ態勢の整備

## 平成 28 年度 シラバス

1	名 称	日本文化交流				
2	計 画 者	所属	郡山女子大学 家政学部	職名	教授	
		氏名	諸岡 信久			
3	協力する教員	①	所属	郡山女子大学 家政学部	職名	講師
			氏名	影山 志保		
		②	所属	会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室	職名	准教授
			氏名	川口 立喜		
4	対象となる学生	学 年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	県内で学ぶ留学生（長期・短期）が、郡山女子大学が持つ有形無形の文化財産にふれて、さらには福島県の学生と交流することで、福島県の歴史と日本文化を直接体感して学ぶ。日本人学生が来訪する留学生をもてなすことで、異文化者と触れ合い交流を通じ、自らの語学力や国際的視野の到達点や不足を実感し、事後の学修意欲に結びつける。				
6	具体的な計画	実施時期	内 容			
		8月前半	郡山女子大会場に会津大学や福島大学の留学生を招く			
7	内容と期待される学修成果		内 容	期待される学修成果	Step	
		基本的な姿勢	郡山女子大の諸施設を留学生と日本人学生が共に見学し、実体験し、交流する	異文化他者とのコミュニケーション力と、相手の求めることに対応した課題解決力を育むことができる。	4	
		課題探究力	放射線測定された食物や、浴衣の着こなし、猪苗代湖の発掘など様々な体験をする	【留学生】日本の文化と歴史とりわけ被災後の福島県の状況を体感的に学ぶ。 【日本人学生】相手の求めるものを探し当てる探求力を育むことができる。	3	
		課題解決力	【留学生】事後のリフレクションシートに自分は何が出来るかまとめる。 【日本人学生】学生はどのようなもてなしが出来るか考える	【留学生】地域の歴史を踏まえて、自分は何が出来るか解決する力を育む。 【日本人学生】相手の求めに対応して自ら解決する力を育むことができる。	4	
		情報受信力 情報発信力	文化交流中に、留学生と日本人学生をグルーピングし、コミュニケーションを図る	言語の異なる他者とのコミュニケーションと、自らの語学力の到達点を痛切に自覚し、更なる向学心をもたらす。	4	
		つなぐ力 導く力	諸企画において、学生が主体的に企画を立案し、他者のために一丸となって進める	福島県民のおかれた実情に触れる、そして会場全体で他者をもてなすことを一丸となって進めることで、つなぐ力を育むことができる。	5	

	<p>目指す 学修成果</p>	 <table border="1"> <caption>学習成果のレーダーチャート</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本的な姿勢</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>課題探求力</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>課題解決力</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>情報受信力</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>情報発信力</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>つなぐ力</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	スコア	基本的な姿勢	4	課題探求力	3	課題解決力	4	情報受信力	3	情報発信力	3	つなぐ力	4
項目	スコア															
基本的な姿勢	4															
課題探求力	3															
課題解決力	4															
情報受信力	3															
情報発信力	3															
つなぐ力	4															
<p>8</p>	<p>関連する科目</p>															